

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 4 区分

【発行日】平成 18 年 3 月 30 日 (2006.3.30)

【公開番号】特開 2004-300457 (P2004-300457A)

【公開日】平成 16 年 10 月 28 日 (2004.10.28)

【年通号数】公開・登録公報 2004-042

【出願番号】特願 2003-91432 (P2003-91432)

【国際特許分類】

C 2 2 C 21/06 (2006.01)

【F I】

C 2 2 C 21/06

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 2 月 13 日 (2006.2.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 9】缶ボディの壁厚を 0.07 ~ 0.14 mm に特定した場合の缶の突き刺し強度 (y) と Mg 含有量 (%) との相関が下記の式で与えられることを特徴とする請求項 1 ~ 8 のいずれかに記載の缶ボディ用アルミニウム合金板。

$$y \text{ (N)} = a \times \text{Mg 含有量 (\%)} + b \text{ (但し、} a : 1.5 \sim 3, b : 20 \sim 50 \text{)}$$

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

請求項 9 による缶ボディ用アルミニウム合金板は、請求項 1 ~ 8 のいずれかにおいて、缶ボディの壁厚を 0.07 ~ 0.14 mm に特定した場合の缶の突き刺し強度 (y) と Mg 含有量 (%) との相関が下記の式で与えられることを特徴とする。

$$y \text{ (N)} = a \times \text{Mg 含有量 (\%)} + b \text{ (但し、} a : 1.5 \sim 3, b : 20 \sim 50 \text{)}$$

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

缶ボディの壁厚を 0.07 ~ 0.14 mm に特定した場合の缶の突き刺し強度 (y) と Mg 含有量 (%) (x) との相関は下記の式で与えられる。

$$y \text{ (N)} = a x + b \text{ (但し、} a : 1.5 \sim 3, b : 20 \sim 50 \text{)}$$

図 1 は、壁厚が 0.10 mm の場合における上記の式に従う直線 A の例および壁厚が 0.09 mm の場合における上記の式に従う直線 B の例を示すものである。壁厚 0.07 ~ 0.14 mm の範囲における突き刺し強度 (y) と Mg 含有量 % (x) との関係において、好ましい a の値は 1.5 ~ 3 の範囲、b の値は 20 ~ 50 の範囲である。また、所定の壁厚 (t) の缶の突き刺し強度 (y<sub>t</sub>) に対して、壁厚 0.105 mm の缶の突き刺し強度 (y<sub>0.105</sub>) は、下記の式で求めることができる。

$$y_{0.105} \text{ (N)} = y_t \text{ (N)} + (0.105 - t) \text{ (mm)} \times c \text{ (但し、} c : 400$$

$\pm 100$  )